



ふれあい

高花平小学校 学校だより

No. 18

平成 27(2015)年 11 月-2

☎高花平小 320-2074, 321-3040

あき

き せ つ

秋, いい季節ですね

～ スポーツ・読書・食欲の秋。そして、紅葉…。



学校は、修学旅行・文化祭・音楽会など、大きな行事もひと段落し、今、落ち着いた雰囲気です。先週から、20分休みや体育の時間には、運動場をグルグル、グルグル。かぜに負けない体力づくりです。一方、マスクをしたり、咳き込んだりしている子・先生もいます。どうぞ、みなさん お体大切に…。

うんてん き 運転 気をつけてね！



～ 12/2 (水) は、学校のまわりの道路を走る、
まら そんきろくかい

「マラソン記録会(→ 3(木))」があります。

また、本番までにも、何度か実際のコースを走ります。(試走)

*おもに、学校の周辺・5丁目の道路です。学校職員も監視し、じゅうぶん注意しますが、子どもたちの姿を見かけたら、ゆっくり運転して下さいね。

よろしくお願いします。

ゆっくりお話ししましょう

～ 個人懇談会(連絡表わたし),

今年は2日間ありますよ～

■12/18(金)・21(月)

～ 今年は、一番多いクラスは40人近くあります。少しでもゆったりお話しできるよう、2日間にしました。

ありがたいのは「いつでもよい」ですが、希望の日・時間がありましたら、前もってお知らせください。

心のキャッチボール ～ みなさんからの声・35 ～

〈家庭訪問で出された意見・提言、保護者さんの声…〉

○夏のプール開放は、個人的には、人命を守るという大きな責任があるので

正直怖い。保護者にちゃんと賛否をとってほしい

→ その思いは、私たちもよくわかります。私たち学校職員も、水泳やマラソン指導、自然教室の登山、校区探検(校外活動)など、直接“生命”にかかわる活動・授業を指導するときは、まず『安全』を一番に考えます。水泳指導では、ふざけていたり、約束を守らなかったりする児童がいた場合は、すぐにプールから出します。厳しいかもしれませんが、事故は、そんな時に起こるからです。

→ あってはいけないことですが、「夏のプール開放 事故の責任問題」は、次のようになっています。

○事故の責任⇒ 事故があった場合、**瑕疵***がなければ「プール事業を委託している四日市市の責任となり、賠償問題など 個人に責任が及ぶことはありません。(※**瑕疵**: おしゃべりや居眠りなどの明らかな不注意のこと。みんなが真剣に しっかり監視していれば、それぞれきちんと責任を果たしていることになり、「瑕疵はない」のです。

○救急法講習会は、プール開放の委託条件に「全員が受講する」となっています。あらゆる努力をしても、講習が受けられなかった場合は、受付や準備体操の仕事などをお願いしたいとのことです。

〈※昨年度、教育委員会に確認したおおよその内容です。

くわしくは、平成26年度の学校だより「ふれあい」No. 27(3月-3)をご覧ください



いじめに悩む君へ「あきらめるな、死んじゃだめだ」

ないとうだいすけ
内藤大助さん



名古屋市西区の市立中学校一年の男子生徒(12)が自殺した問題を受け、中学生時代にいじめられた経験を持つボクシングの元フライ級世界王者、内藤大助さん(41)が、自身の体験を通じ、いじめに苦しむ子どもたちへのメッセージを本紙に語った。「絶対にあきらめるな、死んじゃだめだ」

俺は中学2年の進級時、クラス替えをきっかけにいじめられるようになった。7人くらいのグループ。最初は遠くから俺を指さして、「ボンビー」と言ってくすくす笑ってた。「なんだよ」と聞くと、「貧乏ってことだ。自分の目で自分の家を見たことあるのか」とからかわれた。

北海道豊浦町の母子家庭で育ったから、トタンの家で、冬になると窓にビニールを張ってすきま風を防いでた。それまで貧乏を気にしたことはなかったけど、急に恥ずかしくなった。

「母子手当をもらって税金で優遇されてんだ。みんなに返せ」とも言われた。きつかった。いじめっ子の子分に殴られて、「何すんだ」って言う「命令されただけ」って。

神様なんて絶対いねえ、俺は不幸なんだって思い込んでた。死にたい、殺してくれと思った。いじめから逃れるために、いじめっ子のグループにこびを売った。そのうち下痢が止まらなくなって、胃潰瘍に。朝昼晩と胃腸薬を飲んでた。

高校卒業後に上京して、身を守るためにボクシングを始めた。いじめっ子たちと違う高校に進学していじめは終わったけど、「いつかまた始まるんじゃないか」と思うと、まだ怖かったんだ。24歳で全日本の新人王になった時、地元の祝勝会に俺をいじめてたやつが来た。もし殴りかかって来ても、今なら「やめろよ」って言えると思った。腕力じゃなくて、心が強くなったんだ。仕返しなんてどうでもいいと思えた。

いじめられて死にたいと思っている子は、親でも先生でも、誰にでもいいから相談してほしい。電話やインターネットにも窓口はある。匿名でもいい。一人で抱え込まないで。

終わらない、いじめなんてない。とにかく

絶対にあきらめないでほしい。死んじゃだめだ。俺は今 幸せ。いじめられてる時はこんな将来は思いも寄らなかった。生きていれば必ず良いことあるよ。 《11/6の中 日新聞より》

ないとう・だいすけ

1974年、北海道豊浦町生まれ。高校卒業後に上京し、ボクシングと出会う。

2004年6月に日本王座、07年7月に3度目の挑戦で世界王座を獲得した。同年10月の初防衛戦で電田大毅選手との“因縁の対決”を制し、話題を呼んだ。引退後はタレントとしても活躍。

～ 子どもたちへ ～

校長先生より

みなさんは、いじめられたり、いじめたりしたことはありませんか？ 実は、私も、小学生のころ、すごくいじめられたことがありました。

内藤選手の記事を読んで、“ああ、同じだ…”と思いました。もし、つらい思いをしていたら、反だちやお家の人に、いじめのことを話してみてほしいと思います。わかってくれる人は、必ずいますよ。